

## 2017 年度「研究者の横顔」 小澤 美和先生

15 才未満で発症する小児がんの治癒率は向上し、近年では社会人の 500~700 人に 1 人は小児がん経験者である時代となりつつある。彼らの晩期合併症のスクリーニングを行い、結果を本人にフィードバックしつつ自己管理能力の育成をすること、そして長期的な健康の質のデータ蓄積を行うことを目的に、心身の包括的な人間ドックシステムの構築を試みた。予防医療センターを併設した総合病院の機能を活かした 1.5 日のメニューで網羅的な健診が実現しつつある。これまでに 27 人の経験者、コントロール群としてきょうだい 9 人参加した。通常の定期受診では実施率が低かった肺機能、視床下部・下垂体・副腎ホルモン系、精巣容量、眼科所見、歯牙所見、骨密度において異常値の頻度も高かった。若年成人期に入った小児がん経験者が今後自己管理能力を高め、社会を支える一員として活躍することを支えるシステムとして行きたい。

RFL の関係者の皆様の心を研究助金として頂き、がん患者さんの未来を作ることに貢献できますように引き続き努力してまいります。継続助成をいただきありがとうございます。